

若き日の川野直人初代理事長と長女なおみさん

「久山療育園の創設と川野直人先生の働きをおぼえて」

理事長 山田 雄次



第192号

発行責任者 社会福祉法人 パプテスト心身障害児(者)を守る会
重症心身障害児施設 久山療育園重症児者医療療育センター
理事長 山田 雄次
編集責任者 梅木 光男
福岡県糟屋郡久山町大字 久原 1869
☎ (092)976-2281
FAX (092)976-2172

久山療育園の初代理事長であり、名誉理事長であった川野直人先生が去る6月20日入院中の病院で心筋梗塞のため急逝されました。

先生のご召天を悼むとともに、生前の働きに對し心からの敬意と感謝を表したいと思ひます。

先生はパプテストコロニー友の会(以下コロニー友の会)活動も含め、今日の久山療育園を創設された久山療育園重症児者運動の父とも言ふべき貢献者でありました。

私たちの運動は1967年に川野先生を中心に3名の牧師達によつてキリスト教社会福祉としてのコロニー建設を目ざすパプテスト心身障害児者を守る会(以下守る会)の立ち上げの発議から始まりました。4年目の1970年にコロニー建設用地として熊本県荒尾市の山地を資金の借り入れによつて取得し、5年目の1971年に守る会より1年遅れ、これも川野直人先生の指導によつて生まれた支援組織コロニー友の会の協力のもとで第一回ワークショップが行われ、以後両者の一体的な連携と協力によつて運動が進められました。運動を育て推めてゆくための講演会

や学習会の開催、また支援組織の拡充と募金活動(街頭募金他)を推めてゆく中で7年目の1973年、コロニー友の会と守る会共に相当の活動の進展があり、運動推進の転機がありました。

特に守る会にあってはそれ迄6年間の歩みの中でオピニオンリーダーであった川野直人先生と聖書のみ言葉(ルカ6:6-11)との深い出会いがあり、コロニー建設論が軌道修正され、「重症児者が社会の片隅に收容されて生きるのではなく、地域を中心に位置づけられて生きる福祉社会づくり」を目ざす新しい創立理念に止揚され、開かれた重症児者施設づくりの取り組みが本格化しました。ご自身が書かれた運動推進のパンフレット、「福祉運動とキリスト者」の中で、「聖書の舞台のすみっこで小さくなっている『手のなえた人に、起きてまん中に立ちなさい』(前述)といつて招き入れられた主イエスのことばほど私を励まし、力づけたものはありませんでした」と記すと共に、その年(1973年1月)広島市で起こった71才の老母が親なきあとのことを安じ、38才の重症者の息子を道連れにガス心中を計つた事件を取りあげ、「もし主が今日、このような現実の前に立たされたとしたら黙つて見過ごされるだろうか」と強い問いを投げかけ、重症児の愛娘なおみさん(当時16才)を抱えた父親としての思いを重ね合せ、久山療育園運動は「ひとりの重症児者のいのちも失われればならない」という主の愛に基づけられ

た教会が担うべき伝道の課題だとその思いを記しておられ、それが法人の設立の趣意書(※)に反映されることとなりました。

その年に現在の久山町に施設建設の受け入れが決まり、翌年の1974年5月社会福祉法人パプテスト心身障害児(者)を守る会の設立発起人総会が開かれ、以後施設開設に必要な諸手続きが導かれ1976年9月、待望のオープンとなりました。

開園後は医師、看護師他の職員不足や事業運営の難問題に法人の業務を総理する責任者として向きあい、園の歩みを導いて来られました。

先生は久山療育園での重責と共に日本重症児福祉協会の理事等を歴任され全国レベルでの重症児者福祉の増進にも長く貢献されたことも覚えなければなりません。

創立聖句「見えるものにはなく、見えないものに目を注ぐ」(第2コリント4:18)というみことばに委ね、久山療育園を創設され、その生涯を献げられたお働きに感謝すると共に創設者としての川野直人先生の志をポスト40年の歩みにおいてしっかりと継承してゆかなければと心から念ずるものです。

※「重症児を抱えた家族が社会的に孤立し、両親の高齢化に伴い、その世話の限度に思ひ余つて親子心中するケースが後を絶たない現状であります。われわれはこのような重荷を負つた両親の労苦に連帯し共に生きることを願つて社会福祉法人を設立しその第一の事業として重症児のための療育園を建設することを決意しました。」(法人設立趣意書の一部)

主張

「30年働きを共にして」

センター長 宮崎信義

川野直人先生は半世紀にも及ぶ社会福祉の働き、指導と実践に働かれました。深いキリスト教信仰と斬新な意識を1976年9月の久山療育園の開園へとつないで下さいました。しかし、また多くの病苦にも向き合っておられました。2018年6月20日未明に召

断されました。ご夫妻はなおみさんの回復を祈りつつ大病院院等を受診されました。

1961年(昭和36年)3月に西南学院大学神学部を卒業され、1962年(昭和37年)4月に白桦バプテスト伝道所牧師に就任され、1965〜1992年には田

隈バプテスト教会で牧師として働かれました。先生の障がい福祉の原点は、なおみさんが背負った重症心身障害にあったと思いません。運動は進められ、1967

年1月に「愛の手を」第1号発行、1975年9月13日に社会福祉法人バプテスト心身障害児(者)を守る会設立が認可され、理事長に就任されました。そして1976年

9月に児童福祉施設設立認可・入園開始(9月27日5名)に至り、今年で42年になりました。

1990年度(平成12年度)の社会福祉に功労があった人について、厚生大臣特別表彰が全国社会福祉大会(東京都日比谷区日比谷公会堂、平成12年11月24日)において行なわれました。当園の川野直人理事長も重症児(者)福祉の長年の功績が認められて表彰に与

りました。功績の概要として、今日まで施設の運営に尽力されたこと、1980年には日本重症児福祉協会の理事に就任され協会の運営や日本の重症児福祉に貢献されたことが覚えられたものです。久

山療育園の創設者として、聖書に忠実に今日の施設の骨格を作り上げられ、21世紀に向かう社会福祉の岐路を乗り切っていくのに十分な設立理念と運営方針を掲げられ実践に尽くしてこられたからだと思われ

掲げられた「久山療育園の設立理念」の一条一条が現在においても、1950年代に北欧で提唱されたノーマライゼーションの理念や、1995年に策定された「障害者プラン」、2000年の「社会福祉法」の理念に合致していることを考えると、いかに先見的な理念であったかに驚嘆しています。

川野先生との出会いと召命
先生は1992年(平成4年)5月に香住ヶ丘キリスト教会協力牧師に就任され、私は1967年以来、医学部の学生時代に同教会に出席し川野直人先生と出会い

ましたが、1994年(平成6年)頃に久山療育園の園長にとのお勧めを受け、1996年(平成8年)4月に久山療育園に導かれました。以来、創立理念と川野直人先生のキ

リスト教社会福祉の教えに基づいて22年間運営に携わってまいりました。その間にご長女のなおみさんの医療福祉に与る機会がありました。

長女のなおみさんのこと
1999年10月6日に先生から相談を受け、三重子夫人が腰を痛め介護(待に入浴)が大変になったと伺い、2000年1月17日には1週間の予定で短期入所されました。初めて家庭から預けられたことにはお気持ちの上での負担があったと思います。しかし、久山療育園にゆだねる決心をされ、2001年4月1日に久山療育園に措置入所されました。お誕生の時の苦難は病弱・合併症も引き起こし、2001年9月中旬以来、呼吸器感染症を併発されました。単なる感染症ではなく、その基礎疾患として肺癌を合併されていたことは、後日の検査で判明しました。44歳の時でした。専門医療のために国立福岡東病院に転院されましたが、2001年(平成13年)11月4日に召天されました。

川野先生の闘病経過と祈り
川野直人先生の突然の訃報に接して、私はとても信じられない気持ちになりました。3月5日のバプテスト社会福祉事業団体連絡協

議会の理事会で先生は議長をしつかりと勤められたからです。前夜の城前牧師の式辞で伺ったところでは、6月9日(土)に前日よりあった前立腺痛が自制出来なくなるほどになり和自病院に緊急入院されたとのことでした。経過は安定し尿道カテーテルもはずされたので退院の予定だったところが、病状が急変し6月20日3時2分に逝去されたとのこと。先生の御功績を思い返しなが、地上を旅立たれたことへの寂しさは否定しようもなく、それだけにご遺族様への主の限りないお慰めと導きをお祈り申し上げます。



制度・情勢

「重症児者制度及び社会の動向」

センター長 宮崎 信義

平成30年度(2018年度)は、診療報酬と介護報酬の同時改定という緊張感で幕が開けられましたが、「世界に冠たる制度」と言われた重症心身障害児(者)医療福祉も大幅な減額を免れ安堵しています。しかし「2025年問題」(いわゆる団塊の世代の殆どが後期高齢者となる)や社会保障制度の財源問題で、重症児(者)医療福祉が厳しい局面を迎えないように、またそうであっても社会福祉貢献を続けていける施設であることが肝要です。日本重症心身障害福祉協会全国協議会での協議や重症児(者)の必要と行政施策とをしっかりと把握して施設を運営してきたいと願っています。「愛の手を」の読者様も、保護者や支援者など多くの方々がおられますので、重症児者制度及び社会の動向を一緒に考えて頂きたいと思えます。

平成30年度診療報酬改定

191号(4月20日号)でも延べましたが、平成30年度の診療報酬と介護報酬(障害福祉

サービス費)の同時改定については診療報酬改定は全体で1.19%の引き下げ(「本体部分」は0.55%引き上げ、「薬価等部分」1.74%引き下げ)で、「障害福祉サービス等報酬」は0.47%の引き上げとなりました。薬価等の部分の引き下げが主となり、予算の全体にとってマイナスイア因はあまりないものと考えられます。

平成30年度診療報酬改定説明会

2018年3月29日に九州厚生局・医師会説明がありました。上記の診療報酬改定に加えて医療制度に関する重要な説明がなされましたので、「愛の手を」の紙面にてお伝え致します。

- ① 医療と介護の連携強化・増える「看取り」を特別養護老人施設等の福祉施設にも広げる必要性を指摘されました。
- ② 適切な医療・介護を安心して受けられる社会の実現(地域包括ケアシステムの構築)。
- ③ 新たな入院医療の評価体系

と主な機能・急性期医療は一般病棟入院基本料の再編・統合、10対1看護を基軸に再編され、急性期医療(長期療養)では「回復期リハビリテーション病棟入院料」、「地域包括ケア病棟入院料」に重点が置かれ、15対1看護+13対1看護が基本となりま

希望に応じた看取りの推進。(2)訪問診療の主治医とケアマネージャーの連携強化。(3)介護医療院・有床診療所の地域包括ケアモデルへの対応。(4)リハビリテーションにおける医療介護連携の推進。

④「地域包括ケア病棟入院料」では、基本的な評価部分と在宅医療の提供等の診療実績に係る実績部分とを組み合わせた体系に見直すとともに、在宅医療や介護サービスの提供等の地域で求められる多様な役割・機能を果たしている医療機関が評価されます。

要点は、2025年問題を眼下においた施策で、在宅医療を重点的に、地域包括診療・ケア、医療と介護の連携等が中心となる医療への再編が見えてきました。重症心身障害施設でも入所・在宅を問わず、「重症児(者)と共」なる医療・療育・福祉に貢献することが求められていると理解しています。

今後の重症児者医療福祉制度

また今後、医療病床の減少があるとするれば、超(準)重症児者(医療的ケア児を含む)や成人病合併症で死去されることや、定義通りの重症児者の「生活介護」への移行・在宅移行またはグループホームへの移行が予測されています。一方で新生児医療のさらなる向上や新生児集中治療室や小児医療の向上で、重い障がいを持ちながら生存できる児が増加しています。

「医療的ケア児」に関する施策
厚生労働省は、「医療的ケア児の支援に関する保健、医療、福祉、教育等の連携の一層の推進について」(平成28年6月3日関係府省部局長連名通知)を地方公共団体等に発出し、連携体制の構築を推進すると表明されました。法制度の内容は、公布された「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律及び児童福祉法の一部を改正する法律」において、地方公共団体に対し、医療的ケア児が必要な支援を円滑に受けることができるよう、保健、医療、福祉等の各関連分野の支援を行う機関との連絡調整を行うための体制整備に関する努力義務を規定(児童福祉法第56条の6第2項)(本規定は公布日施行)したものです。

要点は、①訪問診療や訪問看護等医療を受けながら生活することができ体制の整備の確実、②小児在宅医療従事者育成のための研修会の実施等、③障害児福祉計画等を利用しながら計画的な体制整備、④医療的ケアに対応できる短期入所や障害児通所支援等の確保等です。

地域の重症児者医療福祉制度

公表されている重症心身障害児(者)は43,000人ですが、そのうちの三分の二は在宅の方です。これからも最重度の重複障がいの方の支援施設として、重症心身障害施設はセーフティネットとしての入所機能と在宅支援・地域生活支援の役割が増々求められています。厚労省の施策でも「地域生活支援促進事業」(都道府県・指定都市)として、医療的ケア児等コーディネート・養成研修等事業が推進されようとしています。具体的な目的として、「人工呼吸器を装着している障害児その他の日常生活を営むために医療を要する状態にある障害児や重症心身障害児等(以下「医療的ケア児等」という。)が地域で安心して暮らしていけるよう、医療的ケア児等に対する支援が適切に行える人材を養成するとともに、医療的ケア児等の支援に携わる保健、医療、福祉、教育等の関係機関等の連携体制を構築することにより、医療的ケア児等の地域生活支援の向上を図ることを目的とする」と公示されています。

その事業内容は、①医療的ケア児等を支援する人材の養成...

地域の障害児通所支援事業所

保育所、放課後児童クラブ及び学校等において医療的ケア児等への支援に従事できる者を養成するための研修や、医療的ケア児等の支援を総合調整する者(以下「コーディネーター」という。)を養成するための研修を実施するとされています。②協議の場の設置・地域において医療的ケア児等の支援に携わる保健医療、福祉、教育等の各分野の関係機関及び当事者団体等から構成される協議の場を設置する、とされています。「協議の場」については、都道府県・政令指定都市間の温度差もあります。が、対象者及びご家族が切に求めている必要に、地域横断的に隙間なく対応できる可能性があります。

ご協力ありがとうございました

(2018年3月1日~5月31日) 敬称略

【法人】

一般献金

芦屋キリスト教会、いのちの冠福岡教会、因敷、上久原区長柴尾賢一、友学園女子中学高等学校奉仕委員会、北九州キリスト教会、久山町組合助成金、栗ヶ沢バプテスト教会、栗田昌枝、篠栗キリスト教会、下久原区長佐伯清美、西南学院高等学校、西南学院小学校、西南学院中学校、田中晶矩、筑波バプテスト教会、手作品売上げ、土地家屋調査士法人エビス、中久原区長今林武美、西落合キリスト教会、日本キリスト教団隠岐教会、日本キリスト教団福岡女学院教会、日本キリスト教団福岡弥生教会、子どもの教会、日本バプテスト連盟久留米キリスト教会、日本バプテスト連盟豊橋キリスト教会

日本バプテスト連盟南名古屋キリスト教会、東久原区長末松裕、福岡アルミ工業(株)、福岡第一ライオンズクラブ、豊前キリスト教会、別府国際バプテスト教会、防府バプテスト教会、榎谷悦子、恵泉バプテスト教会女性会、恵キリスト教会女性会、山口正夫 (以上762,943円)

【法人】

指定献金

嘉久明子

(以上3,000,000円)

【重症者ホーム】

一般献金

自動販売機売上献金、井手伸昌、小野敏夫・久恵、久山療育園献金箱、百合丘キリスト教会 (以上108,543円)

【重症者ホーム】

一般献金

安部登美子、荻本明美、東洋英和女学院中高部宗教委員会、日本バプテスト篠崎キリスト教会、福島啓子、プレーズ・ランド、松尾順子、松尾貴光、松尾勇一 (以上137,840円)

【施設】

献品

目白ヶ丘教会(タオル他)、松永佳敏(バナナ)、桑原リサ(紙オムツ他)、池田三国(オムツ他)、入山秀人(はがき)、新藤佐知子(はがき)、鮫島隆之(経男(ティッシュ)、田中由美(はがき)、山崎和樹(はがき)、山口久美(はがき)、高瀬寛(オムツ)、安河内智幸(アスクスタンド)、末田初恵(バスタオル)、福岡丸本(菓子パン)、野津亜季(はがき)、桃野光男(はがき)、田上律子(はがき)、福田さとみ(はがき)、日本バプテスト仙台基督教会女性会(タオル)、宮内千鶴子(タオル)、山口正夫(はがき)、古賀美紀(はがき)、西南女学院中学校・高等学校宗教部(タオル)、日本バプテスト連盟恵キリスト教会女性会(食事用エプロン)、園田敦子(ぞうり)、山之上真紀(オムツ) (以上13,640円)

【バプテストコロンニア友の会】

チャリティコンサート分

2017年度献金分

(以上2,432,224円)

「平成30年度全国重症心身障害施設協議会報告」 センター長 宮崎信義

平成30年度の日本重症心身障害福祉協会が主催する全国施設協議会は、5月22～23日に神戸市神戸芸術センターで開催されました。参加施設は132施設で登録参加者は405名でした。

ここ2年間の主な制度や施策の動向は、2016年度に児童福祉法改正(「医療的ケア児」に適切な支援の為の連携促進を各自治体の努力義務)、2016年度の社会福祉法一部改正(ガバナンス(統治性)の確立、会計の明確化、社会貢献)、2017年3月8日の障害保健福祉主管課長会議で「児者一貫」のみなし規定を恒久化が決定され、2016年6月の障害者総合支援法と児童福祉法の一部改正(2013年度障害者総合支援法施行後3年目の見直し)、そして2018年度では診療報酬改定・障害福祉サービス費同時改定、そして療養病棟入院基本料における「医療区分2」の経過措置の終了で療養病棟入院基本料を採用している施設は14施設に大幅に減

〔行政説明〕

「障害児支援施策の動向から」

少するという制度の転換点の中で開催されました。幸い診療報酬・介護報酬(障害福祉サービス費)同時改定では心配された大きな切り下げは避けられましたが、今後の動向が注目されています。

行政説明は、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部・障害福祉課障害福祉専門官の刀根暁氏によって以下のようになされました。厚生労働省「身体障害児・者実態調査」(在宅・平成28年、施設・平成27年)の障害者統計では、総数が936.6万人(人口の約7.4%)と5年前よりも50万人以上増加し、内訳は身体障害43.6万人、知的障害108.2万人、精神障害692.4万人でした。児童福祉法の一部改訂(障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律及び児童福祉法の一部を改正する法律)の概要について、平成28年5月25日に成立・同年6月3日

公布、趣旨は障害者が自ら望む地域生活を営むことができるよう、「生活」と「就労」に対する支援の一層の充実や高齢障害者による介護保険サービスの円滑な利用を促進するための見直しをおこなうもので、①障害者の望む地域生活の支援と、②障害児支援のニーズの多様化へのきめ細かな対応(1)発達支援を提供するサービスを新設、(2)発達支援を提供する保育所等訪問支援について、乳児院・児童養護施設の障害児を対象を拡大、(3)医療的ケアを要する障害児が適切な支援を受けられるよう、保健・医療・福祉等の連携促進、(4)自治体において障害児福祉計画を策定するものとする等です。

医療的ケア児に対する支援の充実については、医療技術の進歩等を背景として、人工呼吸器等を使用し、痰の吸引などの医療的ケア(中略)ニーズに応じ、地域において必要な支援を受けられることができるよう、サービス提供体制を確保する。更に、障害者への支援を可能とするグループホームの新たな類型の創設(日中サービス支援型)として、①障害者の重度化・高齢化に対応できる共同生活援助の新たな

類型として、「日中サービス支援型共同生活援助(以下「日中サービス支援型」という)を創設。②住まいの場であるグループホームの特性(生活単位であるユニットの定員等)は従来どおり維持しつつ、スケールメリットを生かした重度障害者への支援を可能とするため、1つの建物への入居を20名まで認められた新たなタイプのグループホームとすること。他には、地域生活支援促進事業(都道府県・指定都市)、医療的ケア児等コーディネート・養成研修等事業、等です。目的は、人工呼吸器を装着している障害児その他の日常生活を営むために医療を要する状態にある障害児や重症心身障害児等(以下「医療的ケア児等」という)が地域で安心して暮らしていただけるよう、(中略)支援に携わる保健、医療、福祉、教育等の関係機関等の連携体制を構築することにより、医療的ケア児等の地域生活支援の向上を図ることとされています。

「特別講演」

「療養介護と重症心身障害施設 のこれからを考える」

児玉和夫氏(ベルデさかいセンター長)から2時間にも及ぶ

詳細な講演がなされましたが、前述した「重症児者制度及び社会の動向」を参照願います。

「医療問題検討委員会」の報告

・障害者施設等入院基本料・障害者施設等入院基本料算定医療機関は、全国で862施設、66,800床となっている。これは国立病院機構も加えた重症心身障害施設(3～4倍であり、その多くを占める脳卒中後の患者などの数から(身体障害者手帳判定不明例も多いし、入院期間も短い)判断され、重症心身障害児(者)の評価が低下してしまっている。

・障害児者リハビリテーション料と疾患別リハビリテーション料・急性期と慢性期の区別が進み、脳血管障害などでは受傷後6か月を経過すると、極端にリハビリテーション実施が制限される。

・短期入所は入院ではない↓診療報酬の請求が制限されている。以上特別講演から

・障害者施設等入院基本料に関して「医療課からの質問のポイント」①「不明または非該当」の中で70歳以上が多数だが療養介護施設にもこのようなケースがある可能性はどうか。この入

院基本料については、脳卒中後
遺症患者が対象にならないよう
にする縛り規定を強くしてきて
いるが療養介護施設に脳卒中患
者が入っている可能性はどうか
②医療度について：身体障害者
の等級が「不明または非該当」の
患者では、医療区分1(医療度
が高くない)の患者が多い。

※障害者施設等入院基本料の今
後の見直しにおいて「医療度」が
重視される可能性がある。
・短期入所中の医療処置の診療
報酬算定等について：現行の規
定例
J045人工呼吸819点
医療型短期入所中の、短期入所
施設での人工呼吸の費用の算定
はできる。

J120鼻腔栄養60点
他院、他施設、自施設で経管栄
養の在宅指導管理料を算定して
いる患者についても、医療型短
期入所中の短期入所施設で鼻腔
栄養(胃瘦も含む)費用の算定は
可。
以上、報告事項1・報告者：北
住映二委員長 ほか

超重症児(者)・準超重症児(者)
実態調査
最新の統計(2017年度)

では、超重症児(者)が944
人(13.2%)、準超重症児(者)
が1,152人(16.2%)、そ
の他5,030人(70.6%)、
記入なし1,037人で報告者
総数は8,163人(70.6%)
でした。医療度の高い重症児
(者)者は約30%と把握されま
す。

「シンポジウム」

『重症心身障害児者が社会で豊
かに暮らすために』から

荒井洋氏(ボバース記念病院
院長)からは、「重症心身障害児
者が社会で豊かに暮らすため
の支援の進化」として、①重症
心身障害児者に対するチーム
医療；小児期には病態診断と
多面的な評価を基にした長期
的な診療方針の決定が重要で
ある。青年・成人期には二次障
害の予防・早期発見に努めるた
けでなく、加齢や生活環境に
よって生じる身体状況の変化を
定期的に評価し、健康寿命を
延ばすためのリハビリテーショ
ンプログラムを立てる必要がある。
いずれもチーム医療による
包括的な介入が不可欠。②医

療の変化：(1)脳性麻痺の原疾患
や障害に対する予防・治療・介
入が可能に、(2)二次障害に対す
る医療的対応の進化として麻痺
性側弯症、誤嚥、頸椎性頸髄
症。③小児期の脳性麻痺に対す
る包括的介入。④青年・成人期
の脳性麻痺に対する包括的介
入、等が述べられました。

曾根翠氏(東京都立東大和療
育センターリハビリテーション
科長)からは、「重症心身障害児
(者)の医療・療育の国際化につ
いて」、医療・療育の広がり
が示されました。

佐藤圭石氏(恵の聖母の家施
設長)は、「ICT(情報通信技
術)を活用した重症心身障害児
者の医療情報等の共有に向けた
調査研究事業」が、河崎洋子氏
(ここにこハウス医療福祉セン
ター施設長)からは、神戸市にお
ける医療福祉コーディネーター事
業の紹介が発題されました。

在宅の重度障害児とご家族
に向けた支援として、熊田知浩
氏(びわこファミリーレスパイ
ト理事長)による「びわこファミ
リースパイト」による「びわこファミ
リレスパイトのめざすもの」、
山岡玄馬氏(はなちゃん薬局)か
ら「家族から見た医療的ケア児
の在宅支援」、ご自身のお子様
を支えることから約180家

族(びわ湖周囲200km)の
薬剤を通しての支援について
の体験が述べられました。

おわりに
超重症児(者)医療制度の方向性
について

特別講演や「医療問題検討
委員会」の報告から私が懸念
していることや、制度の動向
に関する考察は以下の通りで
す。【考察】①平成30年度の診
療報酬と介護報酬の結果は激
減は避けられた。②一方で医
療制度の基盤(児者分離、高
齢者・70歳という表現、入院
基本料、医療度)に関する再考・
再編による処遇低下や、リハ
ビリテーション料における急
性期と慢性期の区別による脳
血管リハビリテーション料を
適応外とする等の施策が懸念
されます。



「福音の窓(藤田英彦牧師)」は、都合により
今号は休載致します。ご了承下さい。

支援者からの声

地域生活ケアセンター

小さなたね所長

福岡ベタニヤ村教会協力牧師

水野英尚



「石が叫びだす」

「すると、フアリサイ派のある人々が、群衆の中からイエスに向かって、『先生、お弟子たちを叱ってください』と言った。イエスはお答えになった『言っておくが、もしこの人たちが黙れば、石が叫びだす。』ルカによる福音書19章39節

「重症心身障がい児者」と呼ばれる人たちの多くは、言語コミュニケーションが困難です。「こんにちは。今日は良い天気ですね。」と彼女たちに語りかけても、相手からの返事は「……」となりません。ところが、そうした言葉はなにも、注意しながら間を置き本人を見てみると、目をキョロキョロさせたり、全身に力を入れたりなど、身体での反応をしてい

ることが多くあります。しかし、そうしたことが分からないで過ごしてしまえば、「何も分からない人」「反応がない人」となってしまう。世の中の潮流は、よりスピーディーに、そしてよりスマートであることが求められています。テンポが遅く時間がかかり、思うような形ですぐに反応が返ってこないような事は、社会の流れについて行くことができません。片隅へと追いやりられてしまいま

す。

久山療育園が「われわれは重症児者が社会の片隅に收容されて生きるのではなく、地域の中心に位置づけられることを願います」と設立当初から掲げ続けた理念は、社会が障がいのある人たちを周辺に押しやり、地域社会の中で見えなくされてきたことに対しての、アンチテーゼとして取り組んでいる。また、2年前に起こった神奈川県相模原市の入所施設での殺傷事件は、重い障がいがある者だけを狙い、彼女たちは「生きていく意味がない」と、一方的に決めつけられ標的にされた「ヘイトクライム」です。これを、ある異常者によってなされた事だと片づけなくてはならないと思います。そこで奪われた命、その一人一人の言葉にならなかつた想い、願い、叫び

が、過去の記憶と共に忘れ去らせてはなりません。

イエスが子ロバに乗ってエルサレムに入られたとき、群衆（弟子の群が「主の名によって来られる方、王に、祝福があるように。天には平和、いと高きところには栄光。」と、こぞって賛美しました。しかし、ユダヤ社会の指導者であるフアリサイ派の人々は「先生、お弟子たちを叱って下さい」とイエスに訴えます。イエスは「もしこの人たちが黙れば、石が叫びだす。」と答えました。この群衆（弟子の群）の中の多くが、社会的弱者（失業者、障がい者、貧困層等）であったことは、想像に難しくありません。そうした彼女たちのその声は、神による真の平和と人権の回復であったことでしょう。常に争いや差別が絶えることの無い社会へ向けたアンチテーゼとして、平和の主として子ロバに乗ったイエスの姿に、人々は真の平和を願い、歌い、自分たちの存在意義を問いつつながら叫んでいたのではないのでしょうか。そうした声を、権力や武力によって奪い無き者にしてしまうことは、簡単にできるかもしれません。しかし、イエスはその時「もし、この人たちが黙れば、石が叫びだす。」と語られたのです。抑圧と差別の中で彼女たちの平和への願い

が黙らされてしまうのなら、道に転がっている「石ころ」が叫びだすとイエスは語ります。

近年、私たちの社会では「障害者権利条約」や「障害者差別解消法」が制定され、障がいのある人たちが、自ら声を上げることのできる環境が整いつつあります。また、地域で当たり前に暮らし続ける選択肢も、確実に広がりを見せてきています。しかし、重い障がいにより、「言葉」を発することが困難な人たちの暮らしとなると、その選択肢や生活スタイルを選ぶ対象者として、そのステージに上がる機会が与えられていないように感じています。常に「管理」や「保護」という札付きの空間で、それを「安心」に変換させて提供できる場所が設置され、そこしか生きられないのだと、当事者やその家族も、そして社会もまた信じてきたように思います。しかし、そこ

で「安心」は、「同質」なものを集めることで生じ得たものです。その場所において、重い障がいをもって生きる彼女たちは、「言葉」を語らずに黙っています。彼女たちの「言葉」を聴くことは困難です。しかし、彼女たちが真の平和を願い、歌い、自分たちの存在意義を、その身体全体で表現し示し続けているのだとしたらどうでしょうか。そして、この社会がその存在を見えにくくし、黙させ続けているのなら、きつと「石が叫びだす。」のではないのでしょうか。いや、既に「石の叫び」は上がっていることでしょうか。久山療育園の40年に渡る尊い働きは、常に重い障がいのある彼女たちと共に歩み、支援し続けてこられたこと



2018年6月5日第1回理事会提出
2018年6月26日第2回評議員会承認

2017年度決算

(自)2017年4月1日(至)2018年3月31日

勘定科目		予算 (A)	決算 (B)	差異 (A)-(B)	
事業活動による収支	収入	児童福祉事業収入	3,254,000	6,661,547	△ 3,407,547
		障害福祉サービス等事業収入	491,433,000	497,734,854	△ 6,301,854
		医療事業収入	758,833,000	772,287,521	△ 13,454,521
		経常経費寄附金収入	23,020,000	23,476,037	
		受取利息配当金収入	2,116,000	4,417,832	△ 2,301,832
		その他の収入	5,112,000	7,502,255	△ 2,390,255
	事業活動収入計 (1)		1,283,768,000	1,312,080,046	△ 28,312,046
	支出	人件費支出	1,033,673,000	996,013,117	37,659,883
		事業費支出	139,286,000	146,872,025	△ 7,586,025
		事務費支出	98,509,000	89,333,025	9,175,975
事業活動支出計 (2)		1,271,468,000	1,232,218,167	39,249,833	
事業活動資金収支差額 (3)=(1)-(2)		12,300,000	79,861,879	△ 67,561,879	
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	4,700,000	4,653,000	47,000
		固定資産売却収入		695,540	△ 695,540
	施設整備等収入計 (4)		4,700,000	5,348,540	△ 648,540
	支出	固定資産取得支出	42,000,000	43,988,436	△ 1,988,436
		施設整備等支出計 (5)		42,000,000	43,988,436
施設整備等資金収支差額 (6)=(4)-(5)		△ 37,300,000	△ 38,639,896	1,339,896	
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	50,000,000	50,000,000	0
		その他の活動による収入		694,278	△ 694,278
		その他の活動収入計 (7)		50,000,000	50,694,278
	支出	積立資産支出	25,000,000	83,317,708	△ 58,317,708
		その他の活動による支出		68,179	△ 68,179
		その他の活動支出計 (8)		25,000,000	83,385,887
その他の活動資金収支差額 (9)=(7)-(8)		25,000,000	△ 32,691,609	57,691,609	
予備費支出 (10)			—		
当期資金収支差額合計 (11)=(3)+(6)+(9)-(10)		0	8,530,374	△ 8,530,374	
前期末支払資金残高 (12)		296,955,939	296,955,939	0	
当期末支払資金残高 (11)+(12)		296,955,939	305,486,313	△ 8,530,374	

2017年度決算概要

収支状況

2017年度は社会福祉充実残額の最初の執行年度にあたり、医療スタッフの充実及び処遇改善に30,000千円、電話システム等の更新に20,000千円の合計50,000千円を予算に組み込みスタートしました。2017年度は、資金収支において25,000千円の収支差額を計画しておりましたが、適正な収支管理を実施した結果91,848千円となり、予算より66,848千円増となりました。具体的には、収入は予算より28,312千円増の1,312,080千円となり、入所・短期入所の稼働増が主な要因となります。支出は、予算より39,250千円減の1,232,218千円となり、その主なものとして、人件費37,660千円減・事業費7,586千円増・事務費9,176千円減があります。また福岡県社会福祉施設等施設整備補助金(4,653千円)により防犯カメラ・フェンス設置等を行いました。

尚、2017年度決算結果による社会福祉充実残額は、502,180千円となりました。

園内託児所「こひつじ」

昨年開所した園内託児所「こひつじ」では、今年度から週4日1歳の子どもの利用が始まりました。私は、3月まで病棟の方におり4月から託児所に配属になりました。託児開始日が近づくにつれて、うまく子どもさんと関わる事ができるか不安しかありませんでした。

初めてお母さん・お姉ちゃんと一緒に登園した時は、新しい環境ということもあり少し戸惑っていました。お母さんと離れる際は、涙を流しており本人の気持ちに寄り添いながら、抱っこで少し散歩に行くことにニコニコ笑顔になり、保育士から離れて遊ぶ姿も見られました。初めの2週間はお姉ちゃんと一緒ということもあり、お姉ちゃんの遊びの真似や、好きな玩具や絵本を見つけて楽しく一人遊びをしていました。一人登園になると、寂しかったように涙がポロポロ出ていました。徐々に慣れてくると、泣かずにお母さんから離れ自分から玩具のある場所に行き遊んでいます。毎日の日課として、アサガオの水やりを頑張っています。保育士が「アサガオに水やりしよう」と促すと自分で靴を持ってきて、保育士がサポートしながら自分でジョーロを持ちながら、水やりをしています。水が

なくなると「できたー」と満足そうにしています。

近くの公園まで散歩に行くので滑り台が好きなようで、一人で滑り台の上まで昇り一緒に滑ると大喜びし何回も何回も繰り返し遊んでいました。大きなトラックやバスが通ると「オー」や「来たー」と嬉しそうでした。ここでエピソードをいくつか紹介したいと思います。

最近よく電子ピアノに触れ遊んでいます。朝の会や帰りの会でピアノの準備をしていると、僕もしたいという表情をし、赤い踏み台を自分で準備していました。音がなると「ワァー」と言っていました。ボタンを押すことが好きで、ボタンを押しピアノの音が変わると「あれ？」と様々な表情を見せてくれます。また、指差しながら楽譜を置いてと保育士に訴えるので楽譜を置くと、楽譜を見ながら指を動かしても動いていました。保育士の真似をしているんだなあと感じました。

先日小さな絵本を耳に当てて何かを喋っていました。何をしているのだろうと不思議に思っているの一言をよく聞いてみると「うんうん」「はい」「バイバイ」の言葉を沢山言っていました。絵本を電話に見立てて遊んでいると思うと何だか微笑

ましくなりました。今では楽しく保育活動を行っています。

これから言葉を覚え遊び方もいろいろ変わっていくと思うので、発達段階などを見ることもとても楽しみです。また、園内などで見かけた際は声をかけてください。よろしくお願ひします。

(託児所 保育士 石橋瑛織)



おやつ時間、楽しいな～



やった～♪できた!



めぐみ棟の活動

園外活動

梅雨の晴れ間が広がる6月1日、福岡市科学館へ総勢14名で出かけました。目的の地は六本松。そこまでの道のりも楽しい事ばかり。大きなトラックが高速で隣を通りぬけ、たくさん窓のあるビルを眺めながら、『次は何が見えるかな?』とバスの中は笑顔いっぱいでした。

科学館に到着して、プラネタリウムの上映時間まで、有料展示場の見学。見て、触れて、感じる体験型の展示場では、小学生の団体、年配の方など、平日にも関わらず、沢山の人が、色々なことに挑戦している笑い声の中、みんなの顔が穏やかで、一緒に楽しんでるのがよくわかりました。

そして、一番の目的であるプラネタリウム☆ みんなで話し合っって視聴番組は、ちびまる子ちゃん『星に願いを』に決定。ドームシアター内は薄紫のドーム状のスクリーンに囲まれ、ほんのりアロマの香り漂う不思議な空間。何が起ころんだろう!と、不安顔。まずは、係りの人のナビゲーションで福岡市内の夜景、星空の紹介。星座のお話などがあつたあと、急に館内が真っ暗になったあと、音楽とともにちびまる子ちゃんが始まりました。大きな音にびっくりした利用者もいましたが、画面と音に慣れてくると、一変してリラックスモードになりました。

フリースペースで空腹のお腹を満たした後は、最後のお楽しみ。オシャレな蔦屋でそれぞれ思い思いの本を選び、みんなへのお土産も買いました。

活動でしたが、帰園したみんなの顔は、とっても穏やかでした。

(めぐみ棟看護師 濱窪 恵)



「かしかえんに行ってきました」

4月某日、利用者6名と共に、2台のバスに揺られて「かしかえん」にでかけました。まだ、あまり暑くないその日は、絶好の遊園地日和でした。

海岸沿いにある「かしかえん」は、昨年新しくリニューアルされ、園内はきれいにガーデニングが施された、大人も子供も楽しめる遊園地です。

介助者と共に、並んで座って、様々な乗り物を楽しみました。ゾウの背中にのっけてふわふわと飛ぶような乗り物では、身体が上下左右に揺れるのを感じ、少し緊張した表情も見られました。また、「空のドライブ」では、みんなの頭の上を通るクルマで、園内をドライブし、気持ちの良い風を感じることもできました。車いすのまま乗車できる観覧車に乗った時は、海も見えて、本当に空を飛んでるようでした。

園内のレストランでは、食事だけでなくデザートビュッフェがあり、綿菓子やチョコレートフォンデュを楽しみました。甘い香りに包まれてとっても幸せな気持ちになりました。

季節の草花がとてきれいなかしかえん。また、違う季節にみんなで出かけたいなと思えました。

(療育主任 陣内晶子)



ひかり棟の活動

「運動会」

5月12日、毎年恒例の大きなイベントでもある運動会が行われました。開催されるまでには、風邪などが流行し、心配されておりましたが、無事に全体参加で、天候に恵まれた中での運動会となりました。競技の中では、大きな物や小さい物、重い物や軽い物を皆で協力し合い、目的のポイントまで渡しあつて、ゴールを目指す競技が行われ、途中で手を滑らせて物を落としてしまい、落としてから拾うまでのスタツプの素早さにとっても驚き、利用者とはスタツプの一体感を感じることが出来ました。

風船飛ばしでは、色とりどりの風船を利用者が持ち、飛ばすのですが、風船の先には手紙が付いています。今年も返事が来ますようにお願い、風船を飛ばすと一気に風に乗れ、一つの塊となつて寄り添いながら飛んで行きました。返事を楽しみにしている中、お返事はなんと3日後にありました！

愛媛県は今治市からで、利用者の「あなたは何を見ると笑顔になりますか？」との質問に対して、「僕が笑顔になる時は、周りの人たちが笑顔の時です。」と、お返事が書かれておりました。

地域の方々や遠方の方々との繋がりに感謝し、今年も皆が笑顔で過ごして欲しいと願った運動会でした。

(ひかり棟介護福祉士 岡村典昭)



通所で頑張っています

「通所運動会」

晴天に恵まれた5月12日、第41回久山療育園運動会が開催されました。今年通所は天候に関係なく室内での運動会を計画しました。通所のみで行うため寂しいかなと思いましたが、療育活動を活かした競技が準備され、日頃の成果をご家族の方々に見てもらえたと思います。

最初の競技「ヒツパレー」ではご家族と力を合わせて、いや、お母様が張り切り、まるで大バーゲン会場となっていました。その盛り上がりから一転し、次は目隠しをした保護者の間をタッチされない様に通り抜ける競技。目隠しをした保護者は風や音で通り抜ける利用者の気配を感じ、通り抜ける保護者と利用者は作戦を立て、「二気に通り抜ける」「フェイントをかけながら行く」「静かに通り抜ける」と考え、家族の絆が深まったのではないかなと思います。保護者競技第1弾「くるくるティッシュ」では、いつも優しい上品なお母様たちは、スタートの合図と共に変身！「両手でくるくる巻き付けタイプ」「手を交互に動かしてスピードにひたすら引つ張るタイプ」「勢いよく一気に長く引つ張るタイプ」と様々。交代の時間も無駄を作らない様に前のめりの姿勢でスタンバイ、お父様たちは圧倒され手に汗をかいたのかペーパーがちぎれ悪戦苦闘されています。保護者競技第2弾は「ピンポンキャッチ」。ボールを投げる時は静かになり、キャッチできたチームは拍手が起り出来なかつたチームは、「あー」と落胆の声と取れなかつた方たちの身体の柔軟性にビックリ、変な姿勢に笑いも起り、楽しい時間でした。でも何と言っても全員で踊った「マイムマイム」。利用者、ご家族、スタツプとリズムに乗って「ハイ！」と声を出して心一つにすることが出来ました。

最後は恒例の「風船飛ばし」青空に赤・青・黄・白といった色とりどりの風船がメッセージと共に空高く飛んでいきました。どこから返事が届くのか楽しみでした。参加された皆様ありがとうございました。楽しい時間を過ごせたことに感謝します。来年も楽しみにしててください。

(通所看護主任 山野祥子)



車椅子ダンスマイムマイム

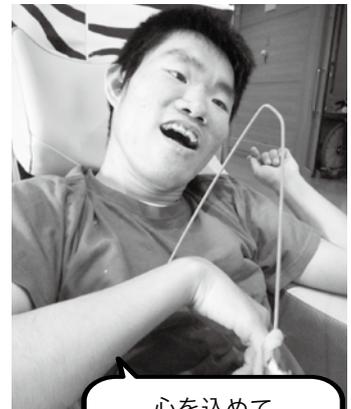
重症者ホームひさやまより

みなさんこんにちは！今回は重症者ホームひさやまでの今年度の活動班を紹介します！

園芸、製作、装飾の3班に分かれて元気に活動中です。まずは園芸班、井手伸昌さん、又野貴志さん、因道子さん、山元久生さんです。重症者ホームひさやまの玄関とベランダでお花と野菜を育てています。水遣りをかかさず頑張っています。1年を通して季節を感じながら、収穫した野菜をみんなで食べたり、ホームの外の人に分けたりするのを楽しみにしています。今日もきゅうりとピーマンを収穫してみんなで食べましたよ。これからはトマトが色付きそう！ぜひホーム農園にお立ち寄り下さい。



収穫は僕に任せて



心を込めて巻いています



可愛いハンガーの出来上がり！

次は製作班、古賀豊さん、仲野雅人さん、縄田亮一さんです。今年度は、生活の中で使ってもらえる実用的なものをテーマに製作しています。ハンガーとチェスト(棚)を製作中。みんなでデザインを考えたり、色を決めたりしてから製作しています。細かい作業は難しいけど、集中して頑張っています。作る楽しさと、それを使ってもらうのを楽しみにワクワクしています。開園祭での販売を目指していますので、みなさんもお楽しみに！今後は「紙すき」もする予定。年賀状や季節のご挨拶カードに使いたいそうです。



私のパンクはこんな感じ

最後は装飾班、篠原ゆかりさん、宗廣清彦さん、山崎和樹さんです。ホームでは毎年季節ごとの可愛らしい飾りつけを行なってきましたが、今年度は一転、1年かけて大人っぽいインテリア作りを目指します。テーマは『アフリカンパンク』、しばらくホームへ来ていない方はびっくりされるかも？シマウマやキリン、ゾウ、少しずつアフリカっぽくなっていますよ。そこにパンクですから、飛び出すくらいのおもちゃの思いや元気が弾けた飾り付けになっています。気になる方はいつでもホームにお越し下さい！

世話人 島津静香 坂井優子

(重症者ホームひさやま)



毎日水遣り頑張ってます！！



大きなあれ♪ 美味しくなあれ♪



アフリカンパンクってこんな感じかな？

バプテストコロニー友の会総会報告&「2018年ワークキャンプ」のお知らせ

2018年度 総会挨拶より「結成50年に向けて」

バプテストコロニー友の会 会長 伊原幹治

2017年度も無事にその活動を終わることができました。さまざまなお知らせのご協力を、感謝申し上げます。

「友の会」の活動は、総会に始まり8月のワークキャンプ、年末・クリスマスまでの1週間街頭募金、そして、2月のチャリティコンサートと、大きなプログラムが続きます。その間にも「久山デー」などのプログラムが行なわれます。その中でも、最大の規模で行なわれるのが、2泊3日のワークキャンプです。昨年度は、120名を超え、これまででは最も多い参加者になりました。限界にかなり近い数字ですが嬉しい悲鳴です。始まった頃は、70人程度でなかったでしょうか。しかし、多くの若者を中心にこれだけの人が集うことは、本当に凄いことだと思います。私は、これを「青少年育成プログラム」と考えています。参加者の2/3はリピーターです。ここから何かを得ようとして、自らの意志で毎年やってくるのです。

私たちがこのキャンプを通して伝えようとしているのは、「生きるに値しない生命はない」ということです。どんな生命も神さまから頂

いた生命であり、尊く、幸福に生きる権利を持つていっていることです。生命を差別することは決して許されないことです。そんな重症児者の最大の力は、私たちに「共に生きる」ということを問うける能力です。ワークキャンプは、この問を受け止め、そこから自分の生き方を考える機会となつていきます。この総会が終わると、間もなくMittelliebenシャツを作る作業が始まります。また、プログラムや食事の担当なども決まります。こうして、29回目となる今年も、多くの若者を迎えたいと思っています。

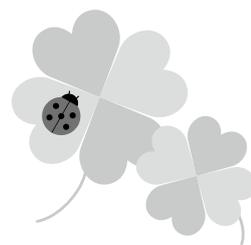
街頭募金も良い結果が出ましたし、チャリティコンサートも大きな感動に包まれました。そういう意味で、良き成果を上げることができた1年であったと思っています。

今年も1969年に「友の会」が結成されて、49年目になります。来年は、記念すべき節目を迎えます。私たちは、この半世紀間、重症児者を支えることで生命の大切さをこの社会に訴えてきました。久山を牽引する「友の会」の働きについて、この総会で話し合いたいと思っています。

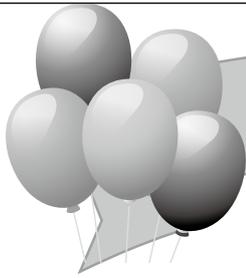


2017年度ワークキャンプでの草刈りと街頭募金

（2018年ワークキャンプは8月20日（月）〜22日（水）に開催されます）



2018年度ワークキャンプお問合せ先
日本バプテスト連盟 仙台長命ヶ丘キリスト教会
金丸 真牧師
電話 022(378)1263



2018年度開園祭

「2018年度開園祭」は、「**新たな段階としての40年の導きをおぼえて**」をテーマとして、9月22日（土）10～15時にかけて開催予定です。感謝礼拝にはじまり公開療育、バザーその他楽しんで頂けるたくさんのプログラムを用意致しました。園の働きを知って頂き、皆様と交流を深める開園祭となるようにと心から願っておりますので是非ご来園下さい。



MIT・LEBEN

第42回 開園祭

テーマ

～新たな段階としての40年の導きを覚えて～

2018
9/22(土)
10:00～15:00

プログラム

感謝礼拝	10:00～11:00	地域交流ホール
食堂バザー	11:00～14:00	通所駐車場、2階食堂談話室
商品バザー	11:00～14:30	1・2階各所
展示・作品販売／看護体験フェア	10:00～15:00	1・2階各所
公開療育	11:10～11:40	地域交流ホール
ふれあい・他	13:00～14:00	地域交流ホール
閉会のつどい	14:30～15:00	地域交流ホール

※内容・スケジュールは一部変更される場合があります。

社会福祉法人 パプテスト心身障害児(者)を守る会
久山療育園重症児者医療療育センター
重症者ホームひさやま



福岡特別支援学校訪問教育 2017年度卒業式・2018年度入学式

高等部卒業式・中学部卒業式

3月2日に高等部卒業式が福岡特別支援学校で行われ、鶴田力斗さん、長倉光さんの2名が卒業されました。翌週3月9日には、中学部卒業式が久山療育園で行われ、浦田千恵子さんが卒業されました。

卒業生の皆さんが日々の学習活動に安心して取り組み、無事卒業を迎えることができたのも、保護者の皆様を始め、久山療育園の職員の方々のご協力や細かいご配慮のおかげです。心より感謝いたします。

小学部・中学部・高等部 合同入学式

今年度、訪問教育では、中学部に村上幸彦さん、高等部に川名亜弥さんの2名の新入生を迎えました。心よりお祝いを申し上げますとともに、福岡特別支援学校訪問教育職員一同、心より歓迎いたします。

入学式は、4月9日に福岡特別支援学校体育館で行われました。今年度の新入生は、小学部、中学部、高等部の3学部合わせて36名で、保護者や学校職員、来客も合わせると200名を超える入学式となりました。中学部の村上さんは、小学部児童の声を聞いて微笑むなど終始リラックスして式に臨まれました。高等部の川名さんは、始めは緊張している様

子でしたが、式の雰囲気や周囲の様子に慣れてくると笑顔も見られるようになりました。お二人とも、今後の学校生活での活躍を予感させる一面を見せてくれました。

今年度の久山療育園の訪問教育は、中学部2名、高等部4名の計6名、そして訪問教育職員は3名でのスタートとなりました。楽しく充実した学校生活を送れるように取り組んでいきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(福岡県立福岡特別支援学校
訪問教育職員一同)



メモ帳

【4月】

▽4月2日～3日 新人オリエンテーション

▽3日 通園始業式

▽3日～6日 看護師・生活支援員オリエンテーション

▽4日 新人職員防災訓練

▽6日 イースター行事

▽6日 福岡特別支援学校始業式

▽9日 福岡特別支援学校 入学式

▽14日 西南学院大学神学部新入生見学(12名)

▽17日 余暇活動(スマイリングホスピタルジャパン)

▽19日 博多高校看護専攻科実習オリエンテーション(72名)

▽21日 こひつじランチカフェ

▽24日 第1回 経営会議

▽28日 認定看護師研修

【5月】

▽10日 職員健診

▽11日 福岡県重症心身障害児(者)を守る会療育研修(21名)

12日 運動会

▽14日～15日 2017年度決算監査(鬼塚税理士法人エルビーエー)

▽15日 余暇活動(スマイリングホスピタルジャパン)／西南学院大学 人間科学部 社会福祉学科

サービズ利用体験実習(17名)

▽19日 こひつじランチカフェ

▽24日 婦人科健診

▽25日 監事監査

▽26日 西南女学院宗教部(中等部・高等部)見学(52名)

▽30日 北部地区連携会議

▽31日 野の花会来訪(3名)

▽31日 全体避難訓練

【6月】

▽2日 久山デー(11名参加)

▽5日 第1回理事会

▽7日 第46回 福岡県重症心身障害施設協議会(46名)

▽10日 篠栗キリスト教会花の日訪問(15名)

▽13日 避難訓練(ホーム・託児所)

▽16日 こひつじランチカフェ

▽22日 保護者会役員懇談会(8名)

▽26日 評議員会(22名)

▽28日 通所夏祭り

職員の異動

(2018/4/2～6/30)

【退職】

▽古清水ひる美(看護師)6/30付

ボランティアだより

5年前から、久山療育園ボランティアが中心となり、大名クロスガーデンで年に一回、「久山デー」が行われています。

今回は、6月2日(土)に開催された久山デーについて、ボランティア代表平良民枝さんにお話し頂きました。

久山デーは、今年5回目となります。1回目から、久山療育園を覚えて、ボランティアとして演奏くださる3人の皆様に心から感謝しています。(フアゴットの埜口浩之さん、ジャズピアノニストの立花洋一さん、ベースの小野稔隆さん)ホスピタリティ溢れる演奏に、参加者一同、癒されました。

5回目の今年、いろんな広がりの中で、久山療育園の皆さんはもちろんですが、こひつじの園ラUNCHカフェ、地域のいろんな障がいを抱えた皆さんも、今回参加してくださったことが、またうれしい出会いとなりました。

大名という街の真ん中に、久山療育園の皆さん、スタッフ、保護者の皆さんがたくさん参加してくださり、普通のこととして、障がい者のみなさんとの交流ができ、素敵な一日となりました。

素晴らしい音楽を聴き、美味しいものいただき、手作り品、惣菜などバザーも楽しみ、アロママツサージコーナーなど、1日久山療育園のことを覚えて、楽しく交流して、お互いを知りあえる久山デー、また来年もよろしく願います。

準備など心をたくさん込めてくださるボランティアの皆様、参加して楽しんでくださる久山療育園をはじめ地域の皆様、どうもありがとうございます。また、来年を楽しみに、ボランティア一同お待ちしております。

当日のチャリティバザーの売上金155,412円は全額、久山療育園にお捧げしました。感謝してご報告まで。

最後に、来年は、2019年5月25日(土)に開催予定です。どうぞ今からご予約くださいますようお願いいたします。

(ボランティア代表 平良民枝)



歩行器



決算発表も終わりもうすぐ夏の季節となります。秋の収穫時期を控え、実を結ぶ大切な時を迎えようとしています。

我々の人生は「ぶどうの木」と近似しているといわれています。ぶどうの木は5年で成木となり、15〜20年でピークを迎え、30年を超えると少しずつ生産量が減少していきます。50年をたつとせいぜい7〜8房ぐらにならなくなり、若そ80年で寿命を迎え最大100年で天寿を迎えます。若い木からはたくさん収穫されますが「凡庸な味」で、むしろ古い木からとれるワインが高級品で、特に50年以上のものだけから作ったワインはブランド品として珍重されます。ちなみにこれは1本の木からは1つのワインしか収穫されないからだと言われています。最近でこそ日本のワインは世界でもその評価が高く有名なレストランでも採用されていますが、昔は30年たつとぶどうの木は切られる運命にあつたのです。ブドウ酒の歴史は古く、紀元前5000年頃には作られていたようで聖書のホセア書にも「ブドウの木のように花咲き、そのかんばしさはまさにレブロン(レボロン)の酒のようになる」と記載されています。西洋の格言に「ワインと女性は歳をとるほど味が出る」といわれるぐらいい人生の喜び、悲しみ、痛み、楽しみなど熟成された趣がその輝きをもたらしているのでしょう。

社会福祉法人を巡る社会環境と業務運営は今後ますます厳しくなることが想定されます。

この暑い夏をいかに過ごすか、またこの時期に人知れず「汗」を掻くかによって人も組織も大きく変わるといわれています。苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生み出しそして更なる成長へと導かれることでしょう。

(M・U)